

活力ある奥出雲町を目指して

平成二十二年三月議会定例会
町長施政方針(抜粋)その一

平成二十二年第一回奥出雲町議会定例会の開会にあたり、井上町長が施政方針演説を行いました。具体的な施策を抜粋してお知らせします。

町政における当面の最重要課題は、景気の回復と雇用の確保を図り、町民の皆様の生活を守ることだと考えております。

一昨年初、世界的な経済不況に陥り、我が国においても累次の大規模な経済対策が取られるなど、その効果が少しずつ現れ始めたところであり、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いています。

こうした中、政府は昨年末相当規模の経済対策を打ち出し、それに伴う補正予算が一月末に国会で成立しました。町としては、この国の経済

対策を受け、今議会に平成二十一年度一般会計補正予算(第六号)と平成二十二年当初予算合わせて四億四千万円余の経済対策関連の予算措置を講じました。

平成二十一年度予算案

現在の経済情勢に鑑み、景気対策に資する事業に対し重点的に予算配分することとしております。

当初予算の総額は一四二億九千万円となり、対前年比で二・九%の減となりますが、国の経済対策に呼応した、経済・雇用対策を盛り込んだ二十一年度予算のうち小・中学校の改修・改築事業、「きめ細かな臨時交付金事業」など約二十五億三千万円は、二十二年度へ繰り越し、実質的には一六八億二千万円の予算とし、切れ目のない経済対策の執行に努めます。



4月3日から出雲市より運行されるトロッコ列車

路線バス運行

奥出雲交通が町内全域で路線運行を行っていますが、来年度は「地域公共交通会議」を設置し、一層利用しやすく、効率的なバス路線となるよう、路線の見直し作業に着手したいと考えています。

なお、小型バス車庫の整備として、横田車庫に続き三成車庫を整備し、路線バス三台を更新することとしています。

情報通信

テレビ電話を活用した高齢者支援に取り組みます。また、住民の皆様が円滑に地上デジタル放送へ移行でき



完成した滝の上第1団地2号棟

公営住宅

老朽化している稲原町営住宅十戸の建替え工事として、中河原公営住宅地内に町営住宅一棟十二戸の新設、併せて同地内の公営住宅全戸の公共下水道接続を実施します。

るよう、様々な施策を講じてまいります。更に、携帯電話の通信エリア拡充についても引き続き取り組みます。

健康で安心して暮らせる町づくり

子育て支援

安心して子どもを産み、育てることのできる環境づくりは最重要課題です。このため来年度から、三人



総合計画

合併後五年が経過する中で、来年度は住民参画と協働による町づくりを目指す「総合計画」の策定を行うこととして

います。この「総合計画」は、地方自治法に基づくもので、自立可能な奥出雲町を創造するため、極めて重要な基本計画と位置づけています。

この計画に基づく各種の施策に着手出来るのは、平成二十三年度からと考えています。

住みよい快適環境の町づくり

社会・生活基盤整備

生活道路の整備については、尾原ダム事業の関連町道である、佐白北原線と玉雲寺上布施線、八代三沢線について、ダムが完成する来年度の完了

を目標に引き続き整備を進めます。

その他の町道事業についても、三沢山根線、川東雲崎線、見寄中田線、川東下垣内線、亀高駅前線の改良整備を継続して進めます。

また、新たに滝坂線、大市六坂線、福頼線の整備に向けた調査も開始します。

なお、県事業については、来年度から県道玉湯吾妻山線朝日町工区、印賀奥出雲線中初工区、桐の木川河川改修などが新規事業として着手される見込みとなりました。



最終年度に入る尾原ダム建設事業

尾原ダム事業周辺整備

国直轄事業の尾原ダムは、来年度には完成する見込みで

そこで来年度は「奥出雲町地域医療確保対策協議会」を設置し、併せて「地域医療支援コーディネーター」の養成等を行います。

なお、かねて要望のありました、馬木地区における診療所整備を行うこととしております。

また今年度中には、食育基本計画も立案し、五月に島根県食生活改善協議会総会を本町で開催、食育を中心とした事業の一層の推進を図ります。



食育研修の様子

多彩な魅力を活かした町づくり

観光振興

ウェブサイトを観光情報や奥出雲ブランドを発信し、観光入り込み客の増加と特産品の販売拡大を図ってまいります。



鬼の舌震バリアフリーの遊歩道

下流域住民の生命財産を守るため、約半世紀にわたって進めてこられたダム事業は、移転にご協力いただいた方々や周辺地域の皆様のご理解とご協力によるものであり、改めて感謝を申し上げます。

このため、周辺地域のより一層の活性化を図るため、国県関係者と十分に協議を重ね、「ダムに協力してよかつた」と言っていたかどうか、佐白地区活性化拠点施設整備や泉源掘削費等を計上し、島根県が整備するポート施設、サイクリングコースと合せて一体的な活用を図ります。

公共交通

JR木次線全線の利用者は依然減少傾向にあり、引き続き木次線強化促進協議会を中心に、利用の促進に努めます。なお、トロッコ列車の運行については、年々利用客が増え、四月三日から日曜日を中心に五十日間、出雲市駅から運行されることになり、出雲圏域の広域観光振興に大きな期待が寄せられています。

また、鬼の舌震整備については、昨年樹立した「鬼舌振保存管理計画」により、文化庁の指導を得ながら、バリアフリーの遊歩道及び吊橋の一部に着手することとしております。

さらに、合併五周年記念事業として羽生善治棋聖を迎える「将棋棋聖戦」、「与謝野晶子短歌文学賞」の本町での開催、並びにTBS開局六十周年記念番組のロケ等による情報発信をはじめ、昨年から始めた韓国からの観光誘客事業をさらに推進します。

なお、平成二十二年に「古事記」編纂一三〇〇年を迎えることから、島根県において計画されている「神話のふるさと島根プロジェクト事業」に参画し、観光ルートの発掘、受け入れ態勢を強化し、交流人口の拡大に取り組んでまいります。